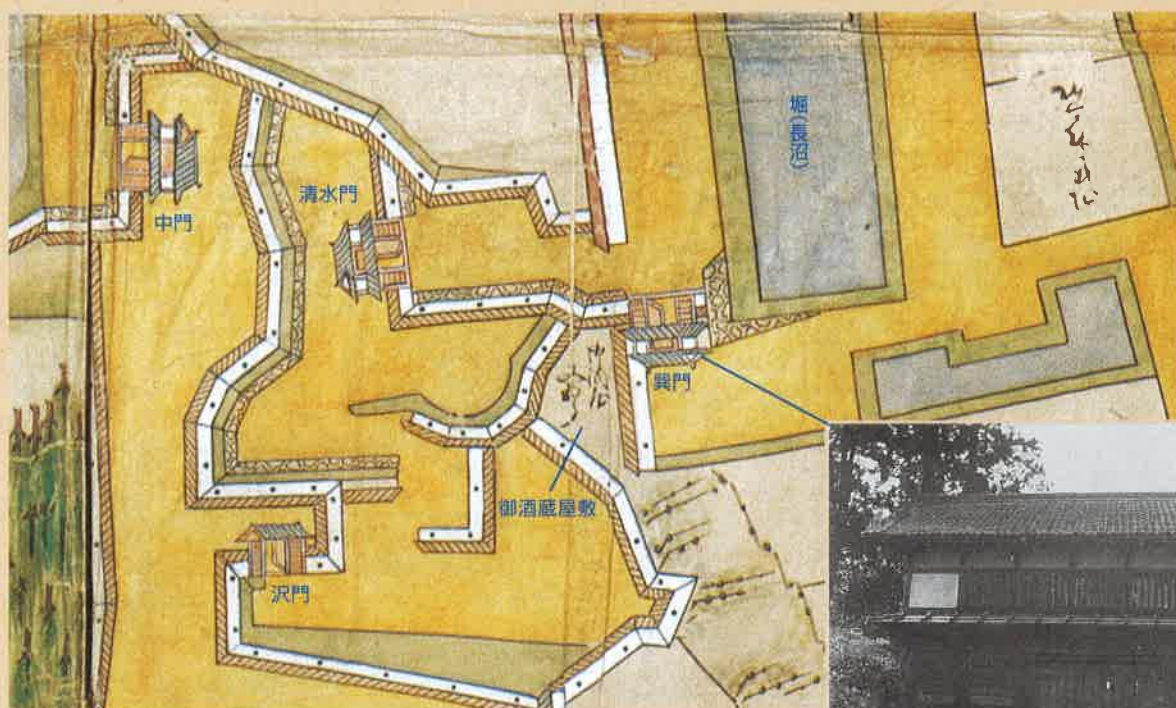




市史通信

第22号

仙台市博物館
市史編さん室



上:寛文4年(1664)の「仙台城下絵図」(宮城県図書館蔵)に描かれた巽門とその付近
右:戦前の巽門「旧仙台城大手門復原考」(仙台商工会議所、平成6年)より



せんだい 今昔

仙台城 もう一つの大手筋

昭和20年(1945)7月の仙台空襲で失われるまで、仙台城のシンボルと言えは大手門でした。62万石の大藩の城郭にふさわしい豪壮な二階建ての門で、国宝にも指定され、仙台の観光地を題材にした絵葉書や案内では必ず取り上げられる代表的な建物だったのです。

この仙台城の顔ともいべき大手門と共に、もう一つの門が残っていたことを知る人は、そう多くはありません。現在仙台市博物館がある、かつての東丸(三の丸)の南端に建っていた二階建ての巽門です。幅13.6m、高さ約11.0mと規模は大手門の約3分の2程度で、いつ作られた建物なのか詳しいことはわかりません。一説には、戦後すぐにアメリカ軍が取り壊したとも言われていますが、発掘調査の際に礎石付近から焼けた土が見つかっていますので、やはり大手門と共に仙台空襲で焼失したものと思われます。

写真も現在のところ数枚しか確認されていない、地味な存在である巽門でしたが、近年少しずつ注目を集めるようになってきました。城郭の縄張(設計)に関する研究が急速に進展したことにより、築城当初の仙台城の大手筋は巽門から入る道筋だったという説が有力になってきたからです。

仙台城の大手門は、規模や意匠的には仙台城の顔にふさわしい立派なものですが、その場所については不自然な感がぬぐえないのです。大手門の西に広がる二の丸が二代藩主忠宗の時期に作られたという仙台城の構造を考えると、大手門の場所は、築城期は城外ということになってしまうからです。この大手門は、城の拡張に伴って大手筋が付け替えられた際に新築されたものと考え、こうした疑問も解消されそうです。

江戸時代の絵図を見ると、城外から巽門に入って清水門、沢門へと登る道は、複雑に折れ曲がり、守る側にとって非常に都合の良い構造であったことがわかります。政宗が仙台城を築城したのは関ヶ原の戦いが終わって間もない時期。西軍側の上杉氏は徳川氏にまだ降伏せず、伊達軍と小競り合いを繰り返していました。上杉氏との全面対決も想定されるなかで築城が始まった仙台城は、戦いを十分に考えた縄張によって築かれたのです。

現在、巽門から清水門にかけては、明治時代に作られた道路によって、ずいぶんとようすが変わってしまいました。しかし、絵図を片手にその場所に立てば、江戸時代のようすを想像することは難しいことではありません。最後の戦国武将伊達政宗の面影を、築城当初の大手筋を歩いて追いかけてみてはいかがでしょうか。

再発見！伊達政宗

空前の戦国武将ブームのなか、仙台藩をつくった伊達政宗の人気も高く、ゲーム・テレビドラマ・小説などでも欠かせない人物となっています。奇抜な行動で注目されがちな政宗ですが、その手紙や同じ時代の記録などから読み取れる、これまであまり紹介されることのなかった政宗の姿をみてみましょう。

—あの貌 この像—

伊達政宗を知るには
この「仙台市史」!

政宗について	【通史編3】近世1
政宗の文書について	【資料編10】伊達政宗文書1 【資料編11】伊達政宗文書2 【資料編12】伊達政宗文書3 【資料編13】伊達政宗文書4
政宗の藩政と教養について	【通史編3】近世1 【資料編9】仙台藩の文学芸能
戦国期の伊達家の歴史について	【通史編2】古代中世
政宗期の文化について	【特別編3】美術工芸
仙台城について	【特別編7】城館

老政宗の喧嘩

江戸中期に佐賀藩士である山本常朝が著した有名な『葉隠』に次のような話が記されています。旗本の兼松又七が政宗の屋敷を訪れたとき、又七が走りかかって扇で政宗の頬を打った。政宗は少しも騒がずその豪放さを褒めてその場を済ませたが、又七が帰ったあと近くにいた小姓に向かって「主人が頬を打たれているのに何もしないとはけしからん」と言って切腹を申し付けた、というものです。

このことを直接裏付ける資料はありませんが、もともになったと思われる事件がありました。

それは寛永7年(1630)7月21日のこと。磐城平藩主内藤政長の江戸屋敷で能が催された席で政宗は幕臣の馬廻衆兼松又四郎と喧嘩に及んだのです。この事件は、細川忠興が国元にいる息子の忠利(小倉藩主)に送った書状や、秋田藩の重臣梅津政景の日記に記されています。64歳で62万石の政宗と、26歳で700石の又四郎との喧嘩はたいそううわさになったようですが、年齢といい、知行高といい、どうも政宗に分が悪く、次のような落首が辻々に出回る始末でした。

政宗の太刀は正名^(銘)やきば(刃)なし^(劣)
せき兼松にきればおとれり

政宗を名刀匠正宗になぞらえ、又四郎を「せき(美濃国関)兼松」という無名の刀工に仕立てています。この落首が本当に喧嘩の結果を伝えたものかどうかはわかりませんが、政宗の評判はかばしくありませんでした。

政宗はとくにこのころ「酒狂い」などと言われ、数々の問題を起こしています。この場合も、若者との喧嘩とは威勢がいいようですが、かえってその威名を失墜させかねないものでした。

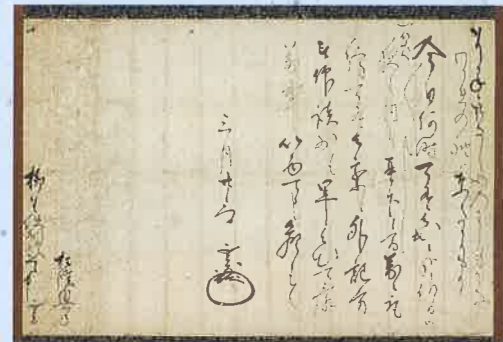
このように、『葉隠』に描かれた政宗像と、そのもともになった実際の出来事における政宗の行動には相当の違いが見られます。政宗にまつわる多くの逸話も、あらためて見直してみる必要があるかもしれません。

政宗のつきあい

その生涯において、現在確認されているだけでも3500通あまりの書状を残した政宗。そこからは政宗の交友関係をかいま見ることが出来ます。たくさん書状を受け取っている大名は、土井利勝の79通を筆頭に、内藤正重72通、柳生宗矩60通、酒井忠世37通、そして32通で今井宗薫と藤堂高虎が同数の5位となっています。

このうち、土井利勝と酒井忠世は、秀忠・家光と2代の徳川将軍に仕えた幕府の重要人物。内藤正重と今井宗薫は徳川政権における政宗の取次役を果たした人物で、この4人宛ての書状は政治向きのことや儀礼的な挨拶などがおもな内容でした。

和暦	西暦	数え歳	おもなできごと
永禄10年	1567	1	米沢に生まれる
天正12年	1584	18	家督を相続する
天正17年	1589	23	会津の芦名氏を滅ぼし、黒川城(現、会津若松城)に移る
天正18年	1590	24	豊臣秀吉に服従し、会津などを没収される
天正19年	1591	25	伊達・置賜などの本領を没収され、葛西・大崎領を与えられて若出山城に移る
文禄2年	1593	27	豊臣秀吉の命により、朝鮮に出兵する
慶長5年	1600	34	仙台城の縄張りを始める
慶長18年	1613	47	支倉常長らをヨーロッパに派遣する
元和元年	1615	49	大坂夏の陣に参加し、真田幸村ら豊臣勢と戦う
寛永4年	1627	61	若林城造営に着手する
寛永13年	1636	70	江戸で没する



私用の花押を用いた柳生宗矩宛ての書状。国元へ帰る前にぜひ会いたい、という内容(仙台市博物館蔵)

また藤堂高虎は、伊勢国の津を居城とする外様大名でありながら、徳川家康の側近的な地位にあった人物です。政宗とは、茶の湯や能といった共通の趣味にかかわる内容の手紙も多いのですが、やはり高虎の政治的な立場が書状の往復を多くしたように思われます。

一方、柳生宗矩は、言うまでもなく将軍家の剣術指南役となった剣豪。このつきあいについても、政治的な思惑をもって政宗が近づいた、と勘ぐることもできます。しかし、残された書状からうかがえる2人のつきあいは、年が近く(政宗が4歳年長)、茶の湯や能が好きな親友同士といった雰囲気です。それを示すのが書状に記された花押のかたちです。政宗は、大名や公家宛ての書状に用いる公用の花押と、親族や家臣向けに用いる私用の花押を厳密に使い分けているのですが、宗矩に対しては、親族・家臣向けの花押をしばしば用いています。慶長11年(1606)ころには親族などに出すような花押のない仮名書きの手紙も出しています。特別な親近感を示そうとしたのでしょうか。

もう一つ2人の関係で忘れてはならないのが酒。宗矩の領地があった大和国(奈良県)は、酒造で名高い地域でした。政宗は宗矩から推挙された大和出身の榎森又右衛門を仙台に招き、仙台城内に酒蔵と屋敷を与えて酒を造らせたのです。政宗は宗矩と酒を酌み交わしながら、又右衛門に造らせた酒のことなど、いろいろと語りあったのではないのでしょうか。

伝洞水東初所用 瑞巖寺蔵



土佐光貞筆 霊源院蔵



狩野安信筆 仙台市博物館蔵



長谷川養辰筆 仙台市博物館蔵

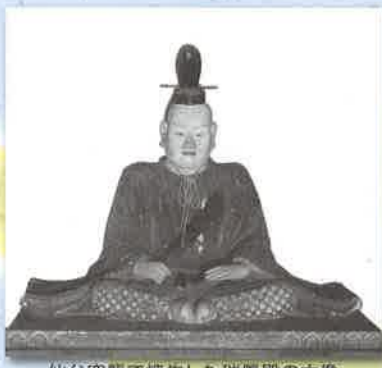


伝伊達忠宗寄進 東昌寺蔵

政宗の肖像あらかると

政宗の姿をあらわした絵画や像は数多く残されています。ここでは、そのなかでも江戸時代に作られたと思われるものをいくつか集めてみました。

幼いころ右目を失った政宗は「独眼竜」ともいわれましたが、その死に際して、自分の肖像などには両眼をいれるよう言い残しました。そのため両目を描いた画像が多いのですが、瑞巖寺の木像や霊源院の肖像画のように、隻眼であることを示しているものもみられます。



仙台空襲で焼失した瑞鳳殿の木像 (「藩祖伊達政宗三百年祭記念絵葉書」)



陽徳院寄進 瑞巖寺蔵



雲居希膺賛 瑞巖寺蔵



佐久間玄徳筆 個人蔵

仙台藩祖 伊達政宗公霊屋 瑞鳳殿

広瀬川にもほど近い杉木立の参道を、仙台藩一門格の由緒をもつ臨済宗瑞鳳寺を左手に見ながら登ると、初代藩主伊達政宗の霊屋である瑞鳳殿があります。政宗は、死後は自分の亡骸をここ経ヶ峯に葬るよう指示し、寛永13年(1636)5月24日、70歳でその生涯を終えました。

瑞鳳殿はその翌年である寛永14年10月に完成したもので、絢爛豪華な霊屋建築として昭和6年(1931)国宝に指定されましたが、昭和20年の仙台空襲に遭い、残念ながら焼失してしまいました。現在見られる建物は、昭和54年に再建されたものです。

すぐ脇にある資料館には、再建の際に行われた発掘調査によって発見された頭蓋骨から復元した政宗の容貌像や、西側にある2代藩主忠宗の霊屋感仙殿・3代藩主綱宗の霊屋善応殿より出土した副葬品を展示するとともに、発掘の様子をビデオ上映しています。藩主の墓所が発掘され、調査の成果が公開されていることは全国的にも貴重な事例といえます。



経ヶ峯には9代藩主周宗・11代藩主斉義夫妻の墓所や、江戸中期以後の藩主子女の墓所もあります。さらに明治10年(1877)に旧仙台藩土によって建立された戊辰戦争殉難

藩士の弔魂碑や、西南戦争戦死者の碑などもあり、仙台の近代史をたどることもできます。

また、感仙殿発掘の際に、土留めや石室の蓋として用いられていた大きな板碑(中世の供養塔)がら基発見されました。現在は資料館内や感仙殿脇で見ることができるこの板碑の存在からもわかるように、経ヶ峯は中世から霊場として見なされていた場所でした。瑞鳳殿が建つところは、万海上人という伝説的な行者の墓があったとも伝えられ、政宗はその生まれ変わりともいわれています。

中世から近代まで繋がる歴史の一端を、ぜひ訪ねてみてください。

仙台藩祖 伊達政宗公霊屋 瑞鳳殿

仙台市青葉区霊屋下23-2 TEL:022-262-6250

開館時間 2月1日~11月30日 9:00~16:30
12月1日~1月31日 9:00~16:00

休館日 12月31日~1月1日

観覧料

*団体は20人以上

区分	個人
一般・大学生	550円
高校生	400円
小・中学生	200円

区分	団体
一般・大学生	450円
高校生	350円
小・中学生	150円

交通案内

仙台駅前西口バスプール 10-3「るーぶる仙台」利用「瑞鳳殿前」下車、または市営バス10・宮城交通バス2で「霊屋橋」下車



仙台の歴史を掘り下げる

「仙台市史」好評発売中!

宮城県内主要書店などでお求めになれます。配送をご希望の方は、電話・FAXで(株)宮城県教科書供給所へお申し込みください。



発売元/ (株)宮城県教科書供給所
〒983-0034 仙台市宮城野区扇町一丁目6-3
TEL 022-235-7181
FAX 022-235-7183
お問合せ先/ 仙台市博物館市史編さん室
〒980-0862 仙台市青葉区川内26
TEL 022-225-3074

◎次回刊行予定
特別編8 慶長遣欧使節
◎続刊予定
通史編/現代1~2
特別編/地域誌、年表・索引

通史編/3,000円(本体2,858円)
資料編/4,000円(本体3,810円)
特別編/6,000円(本体5,715円)
※板碑のみ5,000円(本体4,762円)
1冊ずつお求めになれます

- 【通史編 1】 原始 ※改訂版とセットとなります
- 【通史編 2】 古代中世
- 【通史編 3】 近世1
- 【通史編 4】 近世2
- 【通史編 5】 近世3
- 【通史編 6】 近代1
- 【通史編 7】 近代2
- 【資料編 1】 古代中世
- 【資料編 2】 近世1 藩政
- 【資料編 3】 近世2 城下町
- 【資料編 4】 近世3 村落
- 【資料編 5】 近代現代1 交通建設
- 【資料編 6】 近代現代2 産業経済
- 【資料編 7】 近代現代3 社会生活
- 【資料編 8】 近代現代4 政治行政・財政
- 【資料編 9】 仙台藩の文学芸能
- 【資料編 10】 伊達政宗文書1 ※完売しました
- 【資料編 11】 伊達政宗文書2
- 【資料編 12】 伊達政宗文書3
- 【資料編 13】 伊達政宗文書4
- 【特別編 1】 自然
- 【特別編 2】 考古資料 ※完売しました
- 【特別編 3】 美術工芸
- 【特別編 4】 市民生活
- 【特別編 5】 板碑
- 【特別編 6】 民俗
- 【特別編 7】 城館

お知らせ

『通史編1 原始 旧石器時代』(改訂版)の刊行について

旧石器遺跡発掘ねつ造事件をうけて改訂版を刊行しました。ご購入いただいた元版を博物館の「市史改訂版」係まで送料着払いでお送りいただくか、博物館まで直接お持ちください。お届けいただいた元版に改訂版を添えてお返しいたします。詳しくは市史編さん室までお尋ねください。

仙台市博物館休館のお知らせ

平成21年8月31日~平成22年4月19日は館内改修工事のため休館しております。平成22年4月20日リニューアルオープン!